

右は角行師、下段右は光清師の墓碑です。



左は本堂に安置されている角行師の御尊像です。立行をされている御姿ではなく、僧形で座禅を組まれている御姿は希少と思われます。



●海蔵寺

文京区向丘 2-25-10



食行身祿師の墓所がありません。烏帽子岩での御入定後、



御分骨されたとのことですが、今でも身祿師の御遺骸は、烏帽子岩の石櫃の中に御鎮座されているというお話もありますので、御遺髪をお納めしたのかもしれない。次女の「おまん」の嫁ぎ先の黒木氏によつて近年まで御法要が営まれていました。初代の墓所は簡素なものでしたが、富士講の隆盛により、次第に立派なものになったようです。



本堂には身祿師の御尊像が安置されています。

敬神の道標

④



『幕末期不二道信仰関係資料』

不二道願立御札に付御答書

岡田博編 加藤信明校閲
岩田書院 平成二三年七月刊

A5判・392頁・上製本・函入 7900円(税・送料別)

「不二道」は、在俗の富士行者食行身祿が唱えた教えを核として民衆が自発的に組織した信仰集団である。

食行身祿や小谷三志の教えの根底には、理想の世「みろくの世」を実現しなければならぬという使命感があった。その信者の一人が弘化四年

(一八四七年)に、幕府に対して不二道による教化の実施を求める訴えを起こした。

「不二道願立御札に付御答書」は、その訴えが勘定奉行所と寺社奉行のもとで審理される過程を、不二道側の人物が書き留めた記録であり、不二道に結集した民衆の宗教観念、社会思想、情報伝達のネットワーク、さらに奉行所の審理のやり方を知るためにも役立つ史料である。

本書には、教義や儀礼について詳細に質問する役人と、それに応じる信者の質疑応答が言葉通りに記録されており、不二道の教義・儀礼や、信者たちの思想や信念を知る絶好の手掛かりとなる。

本書は、上段に本文を、下段に詳細な脚注を付しており、その脚注は、編者が長年の調査・研究で蓄積された知識を駆使して記したもので、解説一〇〇頁と併せて、不二道を理解するための基本資料となった。